

岩手・沖縄

# かけはし

第 23 号

平成25年3月30日発行

奥州市江刺区愛宕字八日市69-4

岩手県農産物改良種苗センター内

(TEL:0197-35-8505 FAX:0197-35-0304)

## 目 次

1	ごあいさつ	岩手・沖縄かけはし交流協会	会長	福岡 勝夫
2	平成24年度かけはし交流協会定期総会開催結果	岩手・沖縄かけはし交流協会		事務局
3	石垣島マラソンが教えてくれたもの	盛岡走友会	副会長	十文字忠雄
4	決断と偶然(?)が生んだ「いわてオリジナル水稲品種緊急増殖事業」の成功	岩手・沖縄かけはし交流協会	事務局長	工藤 純一
5	編集後記	岩手・沖縄かけはし交流協会		事務局

## ごあいさつ

岩手・沖縄かけはし交流協会 会長 福岡勝夫

1月26日(土)、きれいに晴れ渡った石垣の空の下、前栄里公園に二百数十名の参加者を迎え、前会長の高橋洋介さんの顕彰碑建立並びに菅原邦典さんの顕彰碑移設の除幕式典が盛大に挙行されました。とても感動的でありました。昨年の一月に洋介さんの顕彰碑を建立することを宣言されて以来、後に建立期成会長となられた平田勝男さんを始め期成会の皆様のご苦勞に感謝するものであります。

また、此の日のため、翌日の石垣マラソン、或いは観光ツアーを兼ねて245名の方々が岩手からチャーター機で或いは定期便で石垣を訪問いたしました。それぞれの思いを胸に抱きながら式典や祝賀会に参加されたのであります。特にも、県からは知事代理で東大野潤一農林水産部長さん、佐々木博県議会議長さん、田沼征彦岩手JA五連会長さん等々お歴々のご参加も頂きました。

此の顕彰碑を建立するにあたり、岩手でも建立を支援する会が洋介さんと同級生の久慈浩(南部美人代表取締役)さんを会長に立ち上げ、多くの善意を集めて頂き期成会に支援頂いたほか、久慈会長さんを始め多くの会員の方々に式典にご参加頂きました。本当にありがとうございました。

石碑を掘って頂いた高末石材店の高橋正さん、石碑の揮毫を頂いた西郷和子さん(代理)の出席を頂けたことも嬉しいことでした。出席されたご両家の御遺族の方々も新たに涙し、感慨一入だったと思います。

今年度は顕彰碑建立に係る事業が大きなウエイトを占めましたが、いわて北上フルマラソン大会には、中山石垣市長さん始め40名近い方々が参加され、一本松の保存支援のため現地を訪問されたり、リング狩りを楽しんで頂きました。また、八重山高校PTA、OBの皆さんが被災地へ赴き炊き出しをして頂きました。本当に石垣の皆様のお熱い思いを込めた交流には、ただただ感謝でございます。11月の物産展には、岩手産の果物、野菜を石垣の方々にお届けし、大変喜んで頂きました。さらに、7月には、盛岡市と沖縄うるま市とが姉妹提携を結ばれ、岩手と沖縄との絆の太くなるのを感じております。

これからも、彼の地の文化を尊重し、いろいろな分野の交流の広がりのため会員の皆様と共に努力して参りたいと思います。



並び立つ高橋氏・菅原氏の顕彰碑

新聞記事抜粋

## 岩 手

沖縄県石垣市の中山義隆市長は7日、陸前高田市役所を訪れ、同市の「奇跡の一本松保存基金」に、石垣市民から寄せられた50万円を寄付した。

【関連記事24面】中山市長は「市民から寄せられた善意を一本松の保存のために使訪れた。」

中山市長は、本県と長年交流を続ける石垣市の石垣・岩手かけはし交流協会(高木健会長)のメンバーら約30人と共に陸前高田市を

### 一本松保存に役立てて 沖縄・石垣市から寄付



陸前高田 菊池満夫企画部長に目録を手渡す中山義隆石垣市長(右)

10月7日岩手日報

## 平成24年度かけはし交流協会定期総会（交流会）開催結果

岩手・沖縄かけはし交流協会の平成24年度定期総会が、去る10月7日、北上市において開催されました。

今年の定期総会へは、高橋敏彦北上市長に來賓として参加して頂き、北上マラソン大会への協力支援に対し感謝する旨のご挨拶を頂きました、その後の議事では福岡勝夫会長を議長に選出し、高橋前会長亡き後の1年間の活動結果を総括し平成23年度決算と平成24年度事業計画・予算の承認を頂きました。

総会終了後は、石垣からの40名の訪問団と北上市長さんを始めとした北上マラソン関係者を含めた120名による大交流会を開催し、12年目を迎えた岩手・沖縄かけはし交流への取り組みを確認しあいました。

交流会の席上では、中山義隆石垣市長から益々の交流を深め、更なる交流の進化を期待する旨のご挨拶を頂き、高橋初男北上市議会議員からも北上市と石垣市の交流が太い絆に発展することを期待する旨のご挨拶を頂きました。又今回は岩手県からも東大野農林水産部長（代理：高橋渉農産園芸課長）に出席いただき、高橋前会長亡き後も交流活動を継続する旨の総会決議に感謝するとともに更なる沖縄・石垣市との交流発展に期待する旨のご挨拶を頂きました。当協会としましては設立趣旨でもある岩手と沖縄の交流支援という立場で、中山義隆石垣市長からも継続表明のあった被災地支援申し出に対し積極的な対応をして参りたいと思います。

なお人事異動等で交代にともなう協会役員の現体制は下表のとおりであります。

区分	氏名	所属・役職等	備考
会長	福岡 勝夫	元岩手県土地開発公社理事長	
副会長	宮澤 徳雄	(株)岩手日報社顧問	
	藤尾 東泉	(株)JAシンセラ代表取締役（岩手中央農協組合長）	
	及川 清人	いわて北上フルマラソン大会実行委員長	
	築田 満	(株)ランデック都市開発代表取締役 (株)ランデック沖縄代表取締役	
	田中 義一	種籾緊急増殖時：技術参事（農蚕課長）	
理事	平井 滋	岩手県酒造組合会長	役員交代による
	鈴木 正宏	岩手県立盛岡第四高等学校PTA会長	
	澤田 行一	種籾緊急増殖時：農蚕課長補佐（元岩手県庁走友会会長）	
	伊五澤正光	(社)岩手県農産物改良種苗センター専務理事	
	小山 雄士	岩手県庁走友会会長	
	村上 直子	一般会員（北上市在住・沖縄県出身）	
監事	工藤 由春	盛岡市議会議員	
	中道 幸男	一般会員（北上市在住）	

### 平成23年度事業報告並びに収支決算

#### I 事業計画

##### 1 運営の基本事項

平成5年度に岩手県のオリジナル水稻品種の種籾緊急増殖事業が沖縄県・石垣市の協力のもとに実施されたことを契機に始まった岩手・沖縄両県の交流は、多くの分野に広がってきている。

当協会は、交流活動の普及、啓発や、民間レベルの交流活動を一層推進するため、平成23年1月10日に石垣市で設立された「石垣・岩手かけはし交流協会」と緊密な連携をとりながら次の事項を重点として取り組んだ。

##### 2 事業の重点実施

###### (1) 「かけはし交流協会」の事業・活動の普及、啓発

会報をはじめ、新聞などの広報媒体を利用するほか、各種機会を捉え、当協会の趣旨や活動の普及・啓発を行った。

###### (2) 交流活動事業への支援

当協会の主要事業である「民間交流活動事業」を実施する団体に対して、助成金を交付し交流活動を支援した。

支援対象事業は、次の通りである。

【民間交流支援事業の内容】

事業区分	対象者	支援内容	助成金
A型事業	1. 舞踊団体「さんさ好み」の石垣島まつり参加	・「石垣島まつり」の市民パレード参加経費へ補助 ・期日：平成23年11月6日 ・場所：石垣市 ・参加人員：21名 ・交流人員：パレード参加者2400名（観衆30,000人）	・事業費（現地タクシー代、太鼓輸送費） 107,110円 ・助成金 53,000円

- (3) 各種イベントでの交流物産等における「かけはし交流出展」  
県内外で行なわれる次のイベントで物産関係者等の協力を得て出展し、交流を図った。  
「かけはし交流」の主な物産イベント実績

イベント名	期日・場所等	主な出展物
「2011いわて北上マラソン大会」	・期日：10月9日(日) ・場所：北上市総合運動公園内広場	石垣島産を主体とした沖縄県産品
「2011石垣島まつり」	・期日：11月5日(土) ～11月6日(日) ・場所：石垣市真栄里公園広場	岩手県産農水産物、特産品（りんご、なし、キャベツ、二子いも、干しいたけ、南部せんべい、冷麺、他）

- (4) 会員相互及び沖縄県民との交流推進

ア 定期総会【10月9日(日) 17時30分～：北上市】等を通じて、会員相互の交流に努めた。

イ いわて北上マラソン大会交流会【10月9日(日) 18時～：北上市】及び同大会【北上市、10月9日(日)】を通じ、石垣市から参加した中山義隆石垣市長やランナー・随行者と交流した。

ウ 第10回石垣島マラソン大会への参加及び交流会の開催

第10回石垣島マラソン大会【24年1月22日(日)】への参加呼びかけ及び農協観光岩手支店が主催する「岩手・沖縄かけはし交流の旅」【24年1月20日(金)～23日(月)】に協力し、花巻空港からのチャーター便で石垣市を訪れ、石垣市民との交流を行った。

また、「岩手／石垣かけはし交流パーティー」【24年1月22日(日)19時～：ホテル日航八重山】を開催し、両県の交流を深めた。

エ 会報の発行

会報を2回(21・22号)発行し、会員に交流活動情報等を提供した。

オ 交流活動等保存資料の作成

種籾緊急増殖事業の実施経過や、岩手県と沖縄県・石垣市との各種交流活動実績を後世に伝えるため、写真資料を集約しCD-R、「水稲種籾緊急増殖事業の軌跡をたどる(菅原邦典さんの活動記録)」集を350部作成し、当時の関係者(30名)と賛助金協力者(94名)へ配布した。

カ 「種籾緊急増殖事業記念碑」建立記念泡盛の頒布

「種籾緊急増殖事業記念碑」の建立記念と、北と南のかけはし交流が末永く続くことを祈念して製作された記念ボトル泡盛「やいま」の継続頒布に取り組んだ。(完売)

キ 2011石垣島まつりへの参加

石垣島まつり実行委員会が主催する2011石垣島まつりに出店参加し、石垣・岩手かけはし交流協会会員等地元の方々の協力を得て、岩手県産農産物の販売などを通じ石垣市民と交流した。

【平成23年11月5日(土)～6日(日)、石垣市真栄里公園広場】

ク 東日本大震災支援への対応

平成23年3月11日発生の東日本大震災に対し沖縄県からの各種支援があり、最大限の対応を行ったことにより、岩手と沖縄県の絆が益々強まった。

- ・ 4月4日～ 琉球新報社新垣記者取材対応
  - ・ 4月13日 沖縄県黒砂糖工業会からの黒糖2tの支援物資が到着し4月18日～5月7日にかけて7市町村、5団体、8二次避難所、5個人に配送
  - ・ 5月12日 石垣市八重山電工嵩原氏の現地調査案内
  - ・ 5月13日 琉球新報社主催「震災フォーラム」へ高橋会長参加
  - ・ 5月16日 沖縄県本島の種柄関係者からの義援金預託
  - ・ 5月24日 「美ら・めんこい会」加賀会長の大槌町慰問・義援金贈呈、
  - ・ 5月30日 佐敷中学校から大槌中学校へ折鶴贈呈
  - ・ 6月3日 八重山高校PTAからのサーターアンダギーを盛岡第四PTAが宮古北高へ配送
  - ・ 6月8日
  - ～9日 東北3県応援ツアー団(131人)来県(盛岡駅送迎)
  - ・ 7月15日 JAおきなわ八重山水稲部会からの義援金受け入れ
  - ・ 8月22日
  - ～24日 那覇太鼓による被災地慰問公演案内(宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市)・義援金贈呈
  - ・ 10月8日
  - ～11日 石垣市長他29名の被災地支援ツアー団来県、義援金贈呈
  - ・ 10月21日
  - ～24日 八重山高校PTA等による宮古市での炊き出し支援
  - ・ 11月13日 受け入れ義援金の贈呈式(JAおおふなと、JAいわて花巻、JA新しいわて)
- ケ 新城幸也選手の全日本自転車競技選手権出場応援  
八重山高校出身でフランスのプロチーム所属の新城選手(27歳)がロンドンオリンピック出場を狙い参加した全日本自転車競技選手権(6月26日:八幡平市)を石垣から来県した後援会員(平田勝男後援会長)と共に盛岡第四高校PTA・かけはし交流協会会員が現地で応援した。(僅差で2位入賞。平成24年4月開催の同大会でオリンピック出場確定)
- コ その他  
平成23年8月に高橋前会長の逝去があったことから、生前の御礼と福岡新会長の会長就任挨拶を兼ね、石垣島マラソンツアーに合わせ沖縄県の関係者を表敬訪問した。(沖縄県庁農政部長、前赤嶺農政部長、JA沖縄県本部長、種柄増殖関係者、在沖縄県人会「美ら・めんこい会」)

## II 収支決算

### 1 収入の部

(単位:円)

科 目	本年度決算額	本年度予算額	比較増減	備 考
繰越金	1,878,267	1,878,267	0	
繰越金	1,878,267	1,878,267	0	岩銀: 1,181,945円 郵貯: 696,322円
会費等収入	1,357,940	3,000,000	△1,642,060	
年会費	-	-	-	
賛助金	1,357,940	3,000,000	△1,642,060	94名(3月末現在)
その他収入	194,691	10,733	183,958	
雑収入	194,353	10,000	184,353	記念ボトル頒布
預金利子	338	733	△395	
合 計	3,430,898	4,889,000	△1,458,102	

2 支出の部

(単位:円)

科 目	本年度決算額	本年度予算額	比較増減	備 考
<b>総 務 費</b>	<u>349,593</u>	<u>330,000</u>	19,593	
総務費	21,105	20,000	1,105	慶弔費
会議費	45,450	30,000	15,450	理事会・総会
通信費	168,346	100,000	68,346	会報年2回分他
事務費	13,957	60,000	△46,043	封筒、用紙、インク他
地域活動費	100,735	120,000	△19,265	石垣支部活動交付金
<b>事 業 費</b>	<u>771,551</u>	<u>750,000</u>	21,551	
一般事業費	53,105	400,000	△346,895	石垣島まつり(579,179円)、かけはし交流ツアー(49,267円)、北上マラソン(90,000円)
交流活動費	718,446	350,000	368,446	
<b>予 備 費</b>	<u>602,583</u>	<u>200,000</u>	402,583	
予 備 費	602,583	200,000	402,583	活動記録集印刷(350部) 震災支援対応費
<b>繰 越 金</b>	<u>1,707,171</u>	<u>3,609,000</u>	△1,901,829	
繰 越 金	1,707,171	3,609,000		岩銀:25,647円 郵貯:1,681,524円
合 計	3,430,898	4,889,000	△1,458,102	

第2号議案 平成24年度事業計画並びに収支予算(案)の決定について

I 事業計画

1 運営の基本事項

平成23年8月に急逝した高橋前会長の遺志を引き継ぎ、10月9日に開催された平成23年度定期総会においては福岡新会長を選出し、当面の間当協会の設立目的に沿った活動を継続することを決定して頂いた。協会設立当初の目標は活動期間10年を目途にしていたとのことでしたが、昨年1月石垣市において「石垣・岩手かけはし交流協会」が設立されたことや、東日本大震災に対する沖縄県からの各種支援に対する対応もあり、改めて今後の活動原資に資するため、会員を中心に賛助金をつのりながら年間活動を続けることとする。

また、平成25年1月26日には石垣市において「高橋洋介顕彰碑」除幕式を開催することが決定した。岩手県内においても、前産業経済政策調査会メンバーを中心に「高橋洋介氏顕彰碑建立期成会を支援する会」を立ち上げて頂き、当協会と連動し来年1月の現地での除幕式を支援する活動を展開中です。

これまでの間、会員をはじめ多くの関係者の協力により、岩手県のオリジナル水稲品種の種籾緊急増殖事業が沖縄県・石垣市の協力のもとに実施されたことを契機に始まった岩手・沖縄両県の交流は、高橋前会長亡き後も多くの分野に拡がってきている。

このため、本年度においても、交流活動の普及、啓発や、活動原資の補強と民間レベルの交流活動を一層推進し協会の強化を図るため、次の事項を重点として取り組む。

2 事業の重点実施

(1) 「かけはし交流協会」の事業・活動の普及、啓発、活動原資の補強

会報をはじめ、各種広報媒体を利用するなど、当協会の趣旨や活動の普及・啓発に努めるとともに、活動原資の補強活動(賛助金依頼)を引き続き行う。

(2) 交流活動事業への支援

当協会の主要事業である「民間交流活動事業」を実施する団体などに対し、助成金を交付し、交流活動を助長する。(但し、平成24年度からは当協会会員所属団体の活動に限定する。)

支援対象事業は、次の通りである。

【民間交流支援事業の内容】

事業区分	対 象 者	支援内容（支援上限額）	支援対象事業
A型事業	民間の団体（任意団体可）、グループ等	事業費の2分の1以内の額（ただし、上限額10万円）	○物産交流○文化・教育交流○観光交流○スポーツ交流○その他特認
B型事業	民間の任意団体、小グループ（数人）等	交流に要する額（実費額）（ただし、上限額 3万円）	○交流に要する費用の全部

(注)：原則として、両県間などの往来に要する旅費交通費、宴席で行う飲食費は支援対象外

- (3) 各種イベントでの交流物産等における「かけはし交流出展」  
 県内外で行なわれる次のイベントで物産関係者等の協力を得て、参加・出店する。

「かけはし交流」の主な物産イベント計画

イベント名	期 日・場 所	主な出展物
「2012いわて北上マラソン大会」	10月7日(日) (予定) 北上市総合運動公園内広場(北上市)	石垣島産を主体とした沖縄県産品
「2012石垣島まつり」	11月3日(土)～11月4日(日) (予定:石垣市)	岩手県産農産物を出店販売（かけはしフーズ(株)へ委託）

- (4) 会員相互及び沖縄県民との交流推進

ア 定期総会【開催計画：10月7日(日) 16時30分～：北上市】等を通じて、会員相互の交流に努める。

イ いわて北上マラソン大会交流会【開催計画：10月7日(日) 17時30分～：北上市】及び同大会【北上市、10月7日(日)】を通じ、沖縄県から参加するランナーや応援団の方々などと交流する。

ウ 第11回石垣島マラソン大会への参加及び交流会の開催

第11回石垣島マラソン大会【25年1月27日(日) (予定)】に多数参加するよう呼びかける。また、「岩手/石垣かけはし交流会」(19時～石垣市内:予定)を開催し、両県の交流を深める。

エ 会報の発行

会報を発行(12月)し、会員に協会の活動情報等を提供する。

オ 2012石垣島まつりへの参加

2012石垣島まつりへの「かけはし交流物産コーナー」の出店と芸能パレード参加を支援し、岩手県産農産物等の販売などを通じて石垣市民と交流するとともに、東日本大震災支援に対する謝意と継続支援を要請する。

カ 高橋前会長顕彰碑建立支援

平成25年1月26日(土)に予定されている高橋前会長顕彰碑建立除幕式に向け、「高橋洋介氏顕彰碑建立を支援する会」と連動し募金活動、式典参加者の募集啓蒙を行う。

II 収支予算

1 収入の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
繰越金	1,707,171	1,878,267	△171,096	
繰越金	1,707,171	1,878,267	△171,096	岩銀：25,647円 郵貯：1,681,524円
会費等収入	500,000	1,357,940	△857,940	
年会費	—	—	—	
賛助金	500,000	1,357,940	△857,940	
その他収入	829	194,691	△193,862	
雑収入	—	194,353	△194,353	
預金利子等	829	338	491	
合 計	2,208,000	3,430,898	△1,222,898	

2 支出の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減	備 考
総務費	170,000	349,593	△179,593	
総務費	20,000	21,105	△1,105	慶弔費他
会議費	30,000	45,450	△15,450	総会、理事会費
通信費	100,000	163,346	△63,346	会報年1回分
事務費	20,000	13,957	6,043	封筒他
地域活動費	—	100,735	△100,735	石垣支部活動費
事業費	450,000	771,551	△321,551	
一般事業費	100,000	53,105	46,895	支援事業費
交流活動費	350,000	718,446	△368,446	沖縄・石垣交流
予備費	100,000	602,583	△502,583	震災支援対応・顕彰碑
予備費	100,000	602,583	△502,583	除幕式典関係諸費
繰越金	1,488,000	1,707,171	△219,171	
繰越金	1,488,000	1,707,171	△219,171	
合 計	2,208,000	3,430,898	△1,222,898	

石垣島マラソンが教えてくれたもの

盛岡走友会副会長 十文字忠雄

私はこれまで、全国の様々なマラソン大会に参加して走ってきました。それぞれのマラソンには、地域のボランティア、地域住民がこぞって協力して下さって、どの大会も感動のゴールを迎える事が出来て良い思い出となっています。

石垣島マラソンもその一つに違いないのですが、しかし石垣島マラソンへの参加はそれまでのマラソンとは違うものをいつも感じてきました。自分の思い出がいつもあっていつものツアーとは違うものを参加の度に感じてきました。走る仲間たちと一緒に風を感じながら走る喜び、その感動とは違ったものを自分の歩幅が刻んでいることを感じるのです。

マラソンを始めてからというもの、ただひたすらに走ってきたという思いと、走ってきたことで出会った多くの仲間たちがいたことで仕事も頑張ってサラリーマンを勤めあげることが出来たように思っています。仕事では味わうことの出来ない世界があったから仕事を続けてこれたと思っています。石垣島マラソン参加の為にこの島に来ると走り続けてきたことのゴールを感じる思いがするのです。42.195キロを走った達成感とは違う、走る仲間と味わえる到達感とでも言えるものを感じます。

石垣島マラソンとのかかわり、期し方を考えるとき、走ることで人と人の繋がりに始まり地域住民との交流、岩手と石垣島との農業、畜産、物産品のはてまで幅の広い交流がされるようになり、当然、岩手と石垣島の人々との信頼関係が構築されて、人々の行き交い、その結果絆が生まれ自然に助け合いが起きた。3・11の時、石垣の人達は取り急ぎ駆けつけてくださいました。感動とありがたい言葉しかなかった一年前の記憶。私はけっして忘れてはならないと思っています。この石垣島の人たちと10月の北上マラソン、11月には川徳・アピオ（物産店）に来ていただける。再会が待ち遠しい。

走り続けて来たことから学んだこと、私達が今感じていることを、若い走る仲間へ伝えたい。走る喜びが走る喜びを超えて、人と人との絆を育み、地域の人々との交流を生んでいく。社会の中にすっかり溶け込んで日常になっていくこと、石垣島マラソンが教えてくれました。

決断と偶然(?)が生んだ「いわてオリジナル水稻品種緊急増殖事業」の成功

岩手・沖縄かけはし交流協会事務局長 工藤純一

この度の「高橋洋介顕彰碑建立・菅原邦典顕彰碑移設式典」で、私はあまりにも偶然の出来事が重なっていたのではないかと思います。その偶然が「いわてオリジナル水稻品種緊急増殖事業」という大プロジェクトの成功に繋がったのではと感じたのでした。

しかし、その偶然には確たる前提があったことを式典後に伺う機会があり、改めて周到な準備と確信に基づいたチャレンジだったことがわかりました。

顕彰碑建立祝賀会では、遠路はるばるご臨席いただいた濱田元岩手県副知事から祝辞を頂きました。その中で、私が知り得なかった平成5年の冷害を受け種籾の緊急増殖事業を行うに至った経緯を始めて明らかにして頂きました。

岩手県では従来から青森県や宮城県が開発した品種を作付していましたが、昭和59年から密かに(?)岩手のオリジナル水稻新品種の開発に着手していたのです。その成果が実を結び、ようやく現地実証を経て冷害年の平成5年2月に「いわて34号」(後の「かけはし」)、「いわて36号」(後の「ゆめさんさ」)が奨励品種に編入されたのです。その直後に大冷害に遭遇し、在来品種が軒並み大きな被害を受ける中、「いわて34号」がそこそこ収量(不稔率50%)を確保出来たのです。(偶然とは言え、まるで冷害に間に合わせるかのように。)

そういった中、翌年度の種籾不足が決定的となったところから、それらの品種を使い翌年の田植えに間に合わせるべく、緊急増殖事業を水稻の2期作の可能な沖縄県石垣島で実施してみてもどうかとの知恵を濱田氏から授かったのです。濱田氏は大蔵省に在籍中から農業分野に強い関心を寄せ知見を深めておられる中、前年の平成4年、国税庁法人税課長だったことから八重山法人会社団化記念式典で講演を行うため石垣市に招かれ、講演の他、石垣島をくまなく視察する機会があり石垣の農業事情を把握していたとのことでした。そして、平成5年7月に岩手県副知事へ就任。あたかも冷害対策を予見し岩手の為に赴任したのではと思えました。また、事業推進のための予算は、前任の大蔵省との太いパイプを活用し、農水省も驚く前代未聞の多額の予算措置がなされました。

洋介さんの決断と、こんなにも偶然が重なっていたかと思われるような事実。しかし、今にして見れば必然的だったとも言える事実があったことを、種籾緊急増殖事業からちょうど20年経った今、濱田氏の祝辞から感じた次第でした。

## 編集後記

平成24年度は1月に前会長高橋洋介氏の顕彰碑建立式典が予定されていたこともあり、その準備にも追われ会報の発行が年度末になったことを、まずもって会員の皆様にお詫び申し上げます。(1年前の原稿も掲載されております。)

お陰様にて岩手県内の募金額も目標額を上まわり、1月26日石垣島現地に置いて滞りなく式典・祝賀会を終えることが出来ました。岩手県からも240名程の多くの参加者があり、ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。特に高橋洋介氏顕彰碑建立を支援する会(会長久慈浩氏)には、募金活動・式典に多大なるご支援を頂き、紙上をお借りし改めて御礼申し上げます。

さて、震災以来の沖縄・石垣市からの支援は平成24年度も続き、石垣市からの陸前高田市への「奇跡の一本松保存募金」への寄付金贈呈、JAおきなわ職員からのパイナップルの贈呈(被災3農協、大槌中学校他4小学校)、八重山高校PTAのOBによる宮古市の仮設団地への2回目の炊き出し支援等を頂きました。平成25年には那覇太鼓の皆さんが慰問公演で再度被災地を訪れてくれる予定になっています。炊き出しについても仮設住人がゼロになるまで訪問する約束をしているとのこと。被災地にいつまでも寄り添ってくれる沖縄県民・石垣市民に感謝する次第です。

これらもかけはし交流が育んだ絆だと思っており、今後も支援者に対し当協会として最大限の対応をしていきたいと思っています。

なお、平成23年度の賛助金協力者は94名、1,357,940円(振込手数料差引後)でした。引き続き活動継続のための原資として賛助金のご協力をお願いする次第です。

また、平成24年の顕彰碑建立募金のかけはし交流協会取扱いは127名、1,083,670円(振込手数料差引後)でした。全額支援する会へお届けいたしました。(お礼状及び記念品は別途支援する会より発送されております。)

出費多端な折、皆様の心温まるご協力、改めてありがとうございます。当協会からも御礼申し上げます。



石垣島祭りでの物産販売



石垣島マラソン参加者の皆さん